

2022年4月8日

新星出版社 編集部

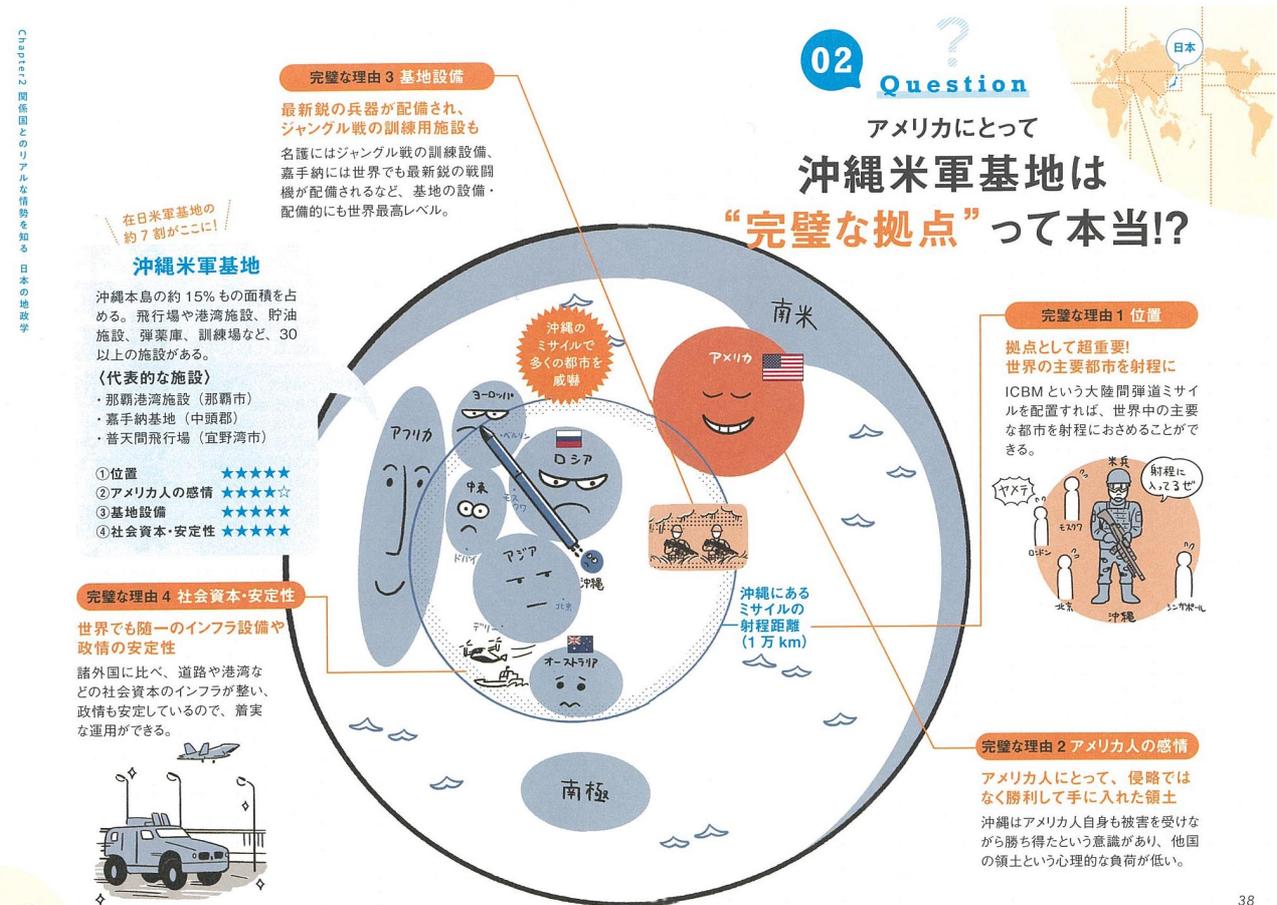
この度、『サクッとわかる ビジネス教養 地政学』につきまして、誤解が生じるような記述をし、ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

●38～41 ページ

「アメリカにとって沖縄米軍基地は“完璧な拠点”って本当!？」につきまして、「完璧な拠点1 位置」にて「世界の主要都市を射程に」と記述しておりました。仮定のお話ではありますが、非核三原則等に反した記述でございましたため、以下を作成いたしました。

○P38-39 アメリカにとって沖縄米軍基地は“完璧な拠点”って本当!?

【修正前】



「完璧な拠点1 位置」 拠点として超重要！ 世界の主要都市を射程に ICBM という大陸弾道ミサイルを配置すれば、世界中の主要な都市を射程におさめることができる。

【修正後】

Chapter 2 世界の安全保障と日本の国策

## 02 Question

### アメリカにとって 沖縄米軍基地は “完璧な拠点” って本当!?

完備な理由 3 基地設備

最新鋭の兵器が配備され、ジャングル戦の訓練用施設も名種にはジャングル戦の訓練設備、高手納には世界でも最新鋭の戦闘機が配備されるなど、基地の設備・配備的にも世界最高レベル。

在日米軍基地の約7割がここに!

#### 沖縄米軍基地

沖縄本島の約15%の面積を占める。飛行場や港湾施設、貯油施設、弾薬庫、訓練場など、30以上の施設がある。

〈代表的な施設〉

- ・那覇港湾施設（那覇市）
- ・嘉手納基地（中頭郡）
- ・普天間飛行場（宜野湾市）

①位置 ★★★★★  
②アメリカ人の感情 ★★★★★  
③基地設備 ★★★★★  
④社会資本・安定性 ★★★★★

完備な理由 4 社会資本・安定性

世界でも唯一のインフラ設備や政情の安定性

諸外国に比べ、道路や港湾などの社会資本のインフラが整い、政情も安定しているため、備えな運用ができる。

完備な理由 1 位置

拠点として超重要! 世界ににらみを利かせられる

沖縄は、米国と日本のシーパワーと、ランドパワーの中国の接点にあり、同時にユーラシア大陸の東端からにらみを利かせられる。

完備な理由 2 アメリカ人の感情

アメリカ人にとって、侵略ではなく勝利して手に入れた領土

沖縄はアメリカ人自身も被害を受けながら勝ち得たという意識があり、他国の領土という心理的な負荷が低い。

ロシア、中国、北朝鮮、インド、東南アジア諸国

中国やロシアなどににらみを利かせる

アメリカ

沖縄

兵士、変なことがあるぞよ

OSF、中国、北朝鮮

39 38

「完璧な拠点 1 位置」 拠点として超重要！ 世界ににらみを利かせられる

沖縄は、米国と日本のシーパワーと、ランドパワーの中国の接点にあり、同時にユーラシア大陸の東端からにらみを利かせられる。

○P40 本文 4 行目

【修正前】

アメリカの I C B M（大陸間弾道ミサイル）を沖縄に配備すると、世界の多くの主要都市が射程に入り、ミサイルを置くには絶好の位置なのです。ミサイル配備に適した場所として、世界のほぼすべての大都市が射程に入るロンドンに次ぐ世界 2 位ともいわれています。

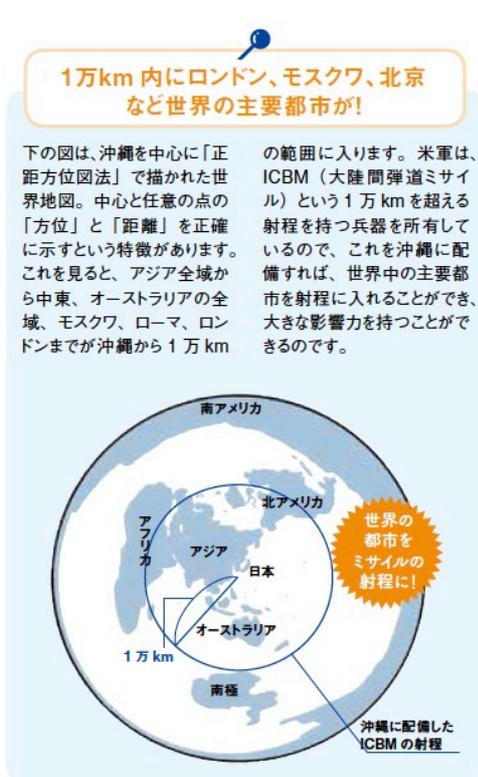


【修正後】

沖縄は覇権争いをしている中国の海洋進出をおさえるためのベストポジション。同時に、ユーラシア大陸の東端に近い場所にあります。つまり、世界ににらみを利かせやすい位置なのです。インド洋のディエゴ・ガルシア米軍基地などと連携することで、さらにその効果は発揮されます。

○40 ページ 図版とテキスト（キャプション）

【修正前】



【修正後】



## 【修正前】

1万 km 内にロンドン、モスクワ、北京など世界の主要都市が！

下の図は、沖縄を中心に「正距方位図法」で描かれた世界地図。中心と任意の点の「方位」と「距離」を正確に示すという特徴があります。これを見ると、アジア全域から中東、オーストラリアの全域、モスクワ、ローマ、ロンドンまでが沖縄から1万 km の範囲に入ります。米軍は、ICBM（大陸間弾道ミサイル）という1万 km を超える射程を持つ兵器を所有しているので、これを沖縄に配備すれば、世界中の主要都市を射程に入れることができ、大きな影響力を持つことができるのです。

## 【修正後】

沖縄は中国の海洋進出をおさえるためのベストポジション

世界の衝突が起りやすい3大エリアは「アジア」「中東」「ヨーロッパ」。沖縄は、そのなかのアジアエリアに、にらみを利かせやすいベストな場所に位置しています。とくに、覇権争いを行っている中国が海洋進出することをおさえる効果が大きく、中国から見れば、沖縄の米軍基地は大変邪魔な存在です。

沖縄基地をはじめとする基地のネットワークを連携させることで、米国は世界の海と空からユーラシアの安定を維持しようとしています。